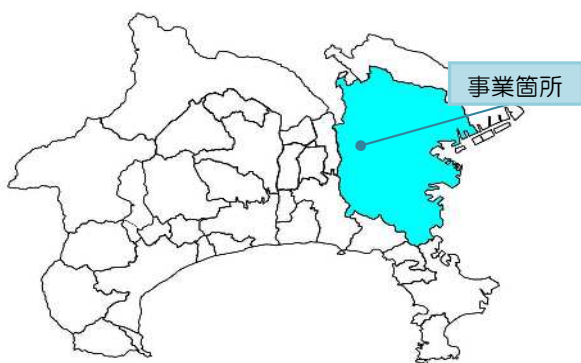




主な施行中地区の紹介

旧上瀬谷通信施設地区（横浜市）	8
登戸地区（川崎市）	10
麻溝台・新磯野第一整備地区（相模原市）	12
ツインシティ大神地区（平塚市）	14
北部第二(三地区)（藤沢市）	16
村岡・深沢地区（藤沢市・鎌倉市）	18
秦野駅南部（今泉）地区（秦野市）	20
秦野中井インターチェンジ南地区（秦野市・中井町）	22
酒井地区（厚木市）	24
伊勢原大山インターチェンジ周辺地区（伊勢原市）	26
中新田丸田地区（海老名市）	28
壺下竹松北地区（南足柄市）	30
田端西地区（寒川町）	32
駅前通り線周辺地区（開成町）	34

旧上瀬谷通信施設地区（横浜市）



地区名	旧上瀬谷通信施設地区
施行者	横浜市
施行面積	248.50ha
施行年度	令和4～令和20年度
認可年月日	令和4年10月5日
事業費	76,580百万円
減歩率	30.81%

旧上瀬谷通信施設地区は、横浜市西部の相模鉄道線「瀬谷駅」から約2km北に位置し、東名高速道路や保土ヶ谷バイパスに近接する交通利便性が高い地区です。平成27年に返還された米軍施設跡地で、約248.5haの広大な土地の中にまとまった農地があり、地区の大部分が市街化調整区域です。

約70年間、米軍施設として自由な土地利用が制限され、市街地の形成やインフラ整備が進まず、民有地と国有地等が混在し、計画的な土地利用がしにくい地区でした。現行制度では、地方公共団体は、市街化調整区域で土地区画整理事業を行えませんが、構造改革特別区域「農地と宅地を一体的に活性化する区画整理特区」の認定により、横浜市施行で土地区画整理事業を実施することが可能になりました。国有地・民有地の混在を解消するとともに、広大かつ豊かな自然環境を活かし、農業振興と都市的土地利用のバランスがとれたまちづくりを、市が主体となって迅速かつ計画的に進め、郊外部の新たな活性化拠点の形成を実現します。

具体的には、地権者で構成されるまちづくり協議会等と検討を進め、次世代に向けたテーマパークを核とした複合的な集客施設の立地を目指す「観光・賑わい地区」、GREEN × EXPO 2027 の理念を継承する環境と防災をテーマとした「防災・公園地区」、新たな都市農業モデルとなる拠点を形成する「農業振興地区」、新技術を活用した効率的な国内物流を展開する「物流地区」の4つの地区を配置する「土地利用基本計画」を策定し、都市計画決定、事業計画決定を経て令和4年度から事業に着手しています。

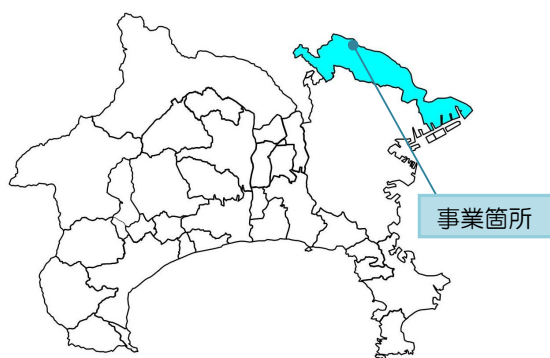
令和5年度は、9月に観光・賑わい地区の事業予定者を決定、11月に仮換地指定を行い、基盤整備工事に着手しました。

令和6年度以降は、GREEN × EXPO 2027 の開催までに必要な、道路・上下水道・調整池の整備や会場エリア等の整地等を行うとともに、関係者と将来の土地利用に向けた具体的な協議や都市計画手続き等を進めています。

登戸地区（川崎市）



令和7年2月撮影



地区名	登戸地区
施行者	川崎市
施行面積	37.19ha
施行年度	昭和63～令和18年度
認可年月日	昭和63年9月16日
事業費	99,376百万円
減歩率	19.0%

登戸地区は、JR南武線「登戸駅」及び小田急小田原線「登戸駅」、「向ヶ丘遊園駅」に隣接しており、多摩区総合庁舎、多摩市民館等が立地する多摩区の中心市街地です。

当地区は都心部から至近距離にあるため、急激な人口集中が始まる中で、急速に市街化が進みました。その結果、低層の木造住宅が密集し、道路の幅員が狭く下水道も未整備であったことから、防災性や生活環境について大きな課題を抱えていました。

これらの課題を解決するため、市施行の土地区画整理事業により、幹線道路（都市計画道路）や駅前広場といった主要な基盤施設とともに、区画道路や公園など、身近な基盤施設の整備とあわせて、土地の整形化や建物の更新を図ることで、防災性の向上や生活環境の改善を推進し、健全な市街地の形成を図ることをめざして本事業を進めています。

現況写真



設計図

川崎都市計画事業 登戸土地地区画整理事業 設計図



麻溝台・新磯野第一整備地区（相模原市）



地区名	麻溝台・新磯野第一整備地区
施行者	相模原市
施行面積	約 38.10ha
施行年度	平成 26～令和 25 年度
認可年月日	平成 26 年 9 月 29 日
事業費	31,834 百万円
減歩率	34.24%

麻溝台・新磯野第一整備地区は、相模原市中心部から南へ約 7Km、平成 25 年 3 月に開通した圏央道「相模原愛川 IC」から約 3Km に位置し、東西に約 700m、南北に約 800m の地区です。

本地区は、周辺に相模原麻溝公園などのみどり豊かな自然環境、文化・教育施設に恵まれた地域であり、圏央道「相模原愛川 IC」からアクセス道路の整備による更なる交通利便性の向上が期待されることから、産業・みどり・文化・生活が共生した「新たな都市づくりの拠点」や市内外の産業需要を支える「新たな産業創出の拠点」として魅力ある良好な市街地環境の形成を図ることを目的としています。

なお、複数の大規模街区を創出するため、申出換地方式を採用しています。

現況写真



設計図

